



Operations Support Services Office
by Persons with Disability

京都大学業務支援室

人・仕事・社会
障害者雇用で「つながる」を実現する
ニュースレター

TU·NA·GA·RU

2025.11
No.10



P4 参照



P4 参照

P2 参照



P3 参照

P4 参照

KSK(スマイル) 第三種郵便物承認 通番3835号 2025年10月25日発行



- 2025 年度採用 室員の自己紹介・・・・・・2
- 社会貢献：医学部「作業分析学演習」協力・・・・・・3
- 社会貢献：「私らしい仕事発見ツアー」実施・・・・・・4

- 障害者雇用の促進：「業務体験・面談会」実施・・・・・・4
- お知らせ：HP 改修用写真撮影・・・・・・4
- お知らせ：京家連機関紙にイラスト掲載・・・・・・4

2025 年度採用 室員の自己紹介

■ U 室員 （4 月採用 吉田）

僕は 4 月 1 日に入社しました。担当している業務は、会場設営、ゴミ運び、コピー用紙の補充、別構内での封入、文学部や法学部で書架整理、附属図書館でフィルター清掃、名刺の作成・封入と依頼元へ納品、パソコン業務です。過去には法学の消毒液の補充業務も担当していました。パソコンの扱いに四苦八苦しています。得意な業務は図書館の書架整理です。

働いてうれしいことはお金がたくさんもらえる事と、楽しい事は店の探検が出来ることと、大変な事は確認作業が莫大な事です。出来るようになってきたのはパソコンを一部をさわれるようになった事です。

イラスト：U.S.



■ Z 室員 （6 月採用 吉田）

実習の時にスキャン業務や名刺カット業務、シュレッダー業務を教えてもらいました。入室当初は「さ行」と敬語が言えなかったですが、業務支援室で仕事をして「さ行」も敬語も言えるようになりました。ごみの分別も出来るようになりました。業務室・事務室の掃除機掛けを

任せられています。室員・指導員から「ありがとう」と言われるとうれしいです。共済物品・貸出業務もしています。緊張しましたがリストの品を貸出が出来ました。いつかは、もう少し速くミスなくスムーズに貸出が出来るようになりたいです。100 枚の名刺袋作成やシュレッダー業務を覚えて一人で出来るようになりました。

■ B 室員 （6 月採用 吉田）

私は働きたい意欲をずっと持っていましたが、人が怖いことや、どんな仕事があるのか、よく分からずにいました。通所していた京大病院精神科デイケアの就労プログラムに業務支援室の指導員が参加されていて、業務支援室や働くことが身近になりました。また、業務支援室のニュースレターで様々な仕事内容などを知り、どんどん興味が湧き、いつの間にか「こんな所で働けたらいいな」という夢になっていました。その後、実習を経て業務支援室に採用になりました。

働いたお金で、コンビニのお昼や、通勤時に使える雨に強い服、仕事に使いそうなマイ指サックなど、前より買い物が気楽になったり仕事の為になったりしました。

業務支援室の仕事や環境に関しては、ここでは様々な仕事があり、1 つ 1 つの業務内容にやりがいがあると思って、とても自分に合っていると思います。沢山の仕事から選ぶのではなく、沢山の仕事がある。仕事に対してのイメージと逆でした。

私の場合は、仕事に対して責任を持って丁寧にという基本を意識した上で、更に綺麗に早くする方法や、効率良く、できれば他の人でもやりやすくする方法を常に探しながら手を動かしています。ほとんどの作業には「コツ」

が隠されているので、見つけるのが早いほど、時短になります。意外だったのが、自分ができることが思ったよりあるということでした。細かい作業が好きなほうで、今までの人生での何気ない経験が役に立つことが多々あり、できて当たり前じゃないことが、今まで以上にある事を知りました。

周りの室員と指導員の皆さんが面白おかしく優しく、時に厳しく接してくれるので、4 ヶ月経った今、実はもう既にかなり馴染んでいます。最初に受けた説明通り、体力は要りますが、指導員のサポートもあるし、周りとのコミュニケーションも取りやすく、みんな個性的でとても楽しい職場です。



■ O 室員（9 月採用 宇治分室）

業務支援室で働くことになった経緯と働きたいと思った理由は、5 年前に業務支援室の吉田と今年の 8 月に宇治分室で実習をしたことで、ビジョンや業務内容のイメージが大まかに掴めていたからです。発足してまだ 2 年目の宇治分室は、「組織としてまだ伸びしろがあり、自分でもより充実したものにしていけたらいいな」と思いました。そして、大学生の頃から大学の職員として働いてみたい気持ちがあり、業務支援室全体と京都大学全体に貢献出来る仕事がしたいと思い、志望しました。

仕事は、部局へ学内便を届ける、ラウンジの清掃、図書館の配架や清掃、研究室の備品の移動、倉庫へ段ボールの搬入など、今までに自分がしたことのない業務が多くあり、新たな刺激になっています。毎日が成長する貴重な機会で、試行錯誤しながら、前向きに取り組んでいます。

ます。

環境面では、自宅から勤務地が近いことが大きく、自転車で片道 20 分程度で到着します。自分は人酔いしやすかったり、乗り物に乗ると音や光、臭いで疲れてしまったりするので、そのような心配が少ないことは、安定した就労につながっていると思います。

また、業務支援室全体に、みんなで励まし合いながら業務に真剣に向き合い、やり遂げようとする意識と意気込みがあります。吉田の室員数名が業務の応援に宇治分室来る機会がありますが、皆さんとても人柄がよく、仕事も迅速で丁寧で、刺激を受けています。指導員には私の体調と特性に配慮して業務スケジュールを綿密に組んでもらい助かっています。同僚からも業務中に「大丈夫？ ぼちぼちやっていこう」と声かけがあり、励みになっています。

社会貢献

医学部「作業分析学演習」協力

7 月 1 日 場所：吉田キャンパス

7 月 1 日に、吉田キャンパス総合研究 5 号館地下 1 階の業務支援室執務室にて、京都大学医学部人間健康科学科先端リハビリテーション科学コース先端作業療法学講座の学部 3 回生を対象とした「作業分析学演習」の一環として、業務支援室の見学・体験を実施しました。先端作業療法学講座の学部生 8 名、大学院生 1 名、教員 1 名、合計 10 名の参加でした。この見学・体験は、本学の先端作業療法学講座と業務支援室との連携で、今回初めて開催しました。参加した学生さんが、作業を治療の手段および目標として捉える視点を育んでもらうことを目的としています。特に「働く」という作業に着目し、学生さんが仕事の現場を直接見学・体験することで、実際の業務の工夫や難しさに触れ、支援者の視点や工夫に触れることで「支援」のあり方を理解したり、働くことの意味や価値を体感し考察するための契機とすることを狙いとしています。

はじめに、当室の濱野副室長より業務支援室について、開設からの経過や、室員業務の内容、取り組み姿勢など、具体的な説明がありました。続いて、実際に当室で行うことが多い封入業務の説明と業務体験を行いました。室員より業務内容の説明のあと、宛名シールを封筒に貼るところから書類の封入、封緘まで、一連の封入業務を体験していただきました。初めて封入作業をされる学生さんも多く、そばに数名の室員がついて一緒に作業を行っていただきました。

その後、北部構内のフィールド科学教育研究センター

森林生態系部門に場所を移動し、はじめに、同研究部門の中西助教から、研究内容やリター（森林における落葉落枝＝リターフォール）仕分け業務の意味や方法などについてご説明いただきつつ、同研究室でリター仕分け業務をしている室員の業務を見学していただきました。「集中力を持続するにはどうされていますか？」など、学生さんからの質問に、室員が答える場面もありました。



最後に、業務支援室執務室に戻り、先端作業療法学講座の小方助教のご指導の下に、今回の見学・体験の振り返りが行われ、その後、学生さんと室員との間で双方に質問しあう交流の時間を設けました。室員から「皆さんの年齢はどれくらい？」、学生さんから「仕事のやりがいを感じる時は？」など、互いの質問に答え合い、発言にうなずきつつ、笑い合うような和やかな時間を共有しました。

今回の室員業務の見学・体験などをきっかけとして、今後も、本学の先端作業療法学講座と業務支援室との連携による取り組みを続けてゆければと考えています。

（部局相談・採用担当 平山聡）

社会貢献

キッズブーケプロジェクト「私らしい仕事発見ツアー」実施 7月28日 場所：吉田キャンパス



障害のある子どもたちの夢の発見・実現を応援することを理念に活動している一般社団法人キッズブーケプロジェクト主催の「私らしい仕事発見プロジェクト」において、2025年も業務支援室体験プログラムを実施しました。このプロジェクトは障害

のある子どもたちとその家族の将来の選択肢を広げることを目的として、全国9ヶ所の企業において夏休みに開催されています。

業務支援室では、7月28日午後に体験プログラムを実施、4組9名の子どもと保護者の参加がありました。初めに当室の室員により働くことについてのプレゼンテーションを行いました。その後、参加者は室員の指導の下で名刺作成業務を体験しました。また、保護者向けに、障害開示や将来の就労の為に10代の今にすべきこと等を考え共有するプログ

ラムを実施しました。

当室の体験プログラムに参加した子どもと保護者にとって、この経験が将来の豊かな人生に繋がっていく小さなヒントになることを願っています。

(業務支援室副室長 濱野康子)



障害者雇用の促進

「業務体験・面談会」の実施 7月30日 場所：吉田キャンパス

7月30日に、京都大学障害者採用イベント「業務体験・面談会」を実施しました。本イベントでは、障害者就労支援機関との連携により、機関を利用中の障害のある求職者と本学で障害者雇用を予定している部局とのマッチングを行っています。

今回は、10月1日採用に向けて、学内4部局から4名の求人があり、6か所の支援機関から7名の参加がありました。第1部では、京都大学の障害者雇用についての説明の後、本学の障害者雇用で働いている職員から自身の障害と職場の合理的配慮、担当業務などについて話がありました。続いて、採用予定部局から業務内容や職場環境についての紹介があ

りました。

第2部では、参加者は2班に分かれ、封入業務とPC資料作成を体験しました。参加者は緊張のなかでも臆することなく業務に取り組みました。続いて、採用予定部局の担当者との面談を行いました。

マッチングが成立した宇治地区事務部では8月に職場実習を行い、事務補佐員として1名が10月1日付で採用が決まりました。



お知らせ



10月8日に、当室HP改修のための写真撮影を清風荘や学内各所で行いました。

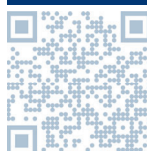


公益社団法人京都精神保健福祉推進家族会連合会（京家連）の機関紙「スマイル」2025年度秋号No.69に、（10月まで当室所属の）地域研究事務部の労務補佐員U.S.さんのイラストが掲載されました。

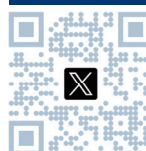
京都大学業務支援室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL：075-753-2063 FAX：075-753-2069
Email：gyoumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
<https://gyoumu-shien.adm.kyoto-u.ac.jp>

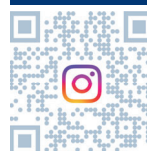
WEB



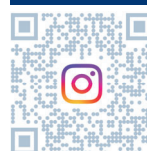
X(Twitter)



吉田



宇治



業務支援室の室員が日々の活動を発信しています